第１回周南市地域とともにある学校づくり推進協議会　会議要旨

開催日時：令和５年１０月１０日（火）　１５：００～１６：３０
開催場所：周南市徳山保健センター１Ｆ　健診ホール
主 催 者：周南市教育委員会　学校教育課
参 加 者：周南公立大学地域共創センター長、小・中学校長会長、公立学校教頭会代表、ＰＴＡ連合会代表、地域学校協働活動推進員代表、地域連携担当教職員研修会企画委員会代表、学校運営協議会会長、周南市役所関係各課担当者

１　開会行事
主催者あいさつ（周南市教育委員会学校教育課主幹）
～主幹あいさつ～

２　学校教育課所管説明
（１）今年度の取組
・令和５年度からの新たな地域連携教育の推進方向について、併せて令和５年度の教職員や児童・生徒、地域住民、保護者等が担うアクションプランを説明。
・各種研修会の開催について
・行政との連携について
（２）周南市の地域連携教育における現状・課題の把握
・地域連携担当教職員研修会について
・事務職員研修会を通して
・全国学力・学習状況調査の回答結果

３　グループ協議・発表
「今後、子どもたちの参画を一歩前進させていくために、子どもたちに関わる者として、それぞれの立場からどのような取組や関わり方等ができるか」

- 小学校は地域との密着度が高いが、中学校は複数の小学校から集まってくるので、地域との密着度が低いように感じる。まずは学校が間に入る必要がある。
- 子どもにとって身近なテーマ（あいさつなど）での熟議は、翌日にはやる気に満ちていてとても良かった。
- 子どもが「受け身」とならず、子どもたちの方から地域と連携したいという声が出てくることが理想。
- 「子どもが中心」「子どもたちのやりたい気持ち」が大切。
- 子どもたちが「知る機会を得る」や「体験したことがある」という第１歩が大切。
- 中学３年生になると、「学習の主体」としての自覚が高まっており、熟議の場でも、上手に喋れるようになっており感心する。
- 地域側も地域の担い手をいかに増やしていくか。中学生も担うことができると感じるし、地域の伝統を継承するには子どもたちの力が必要。

- 周南公立大学の学生も幅広く地域に関わる機会が増えている。小・中学生からは、大学生と関わることで、将来の進路の選択肢が増えたとの声があった。将来教員を目指す大学生も多いため、お互いにとって良い関係性となっている。
- 子どもたち自身が「おもしろい」「楽しい」と思って活動することで、周りの地域の大人も楽しく参加できる。
- コロナ禍で３年間空いた分、新しいアイディアが生まれやすいのではないか。

４　講評：山口県地域連携教育推進協議会代表アドバイザー　木本　育夫　様

- いろんな立場の人が集まり話を聞く。まずは知るということが大切。
- 子どもが熟議に参加することはとても効果的である。
- 大人たちが本気で考える姿を子どもに見せることで、いろいろな考えを知ることができる。キャリア教育の視点からもとても有効。
- 子どもの思いを聞きっぱなしではなく、実現に向けて本気で活動する大人の姿を見せること。
- まずは子どもたちだけで地域の課題を話す場を設けることで、おもしろいアイディアがたくさん生まれる。
- 意義のある熟議を開催してほしい。

５　閉会行事

周南市地域とともにある学校づくり推進協議会長あいさつ

～周南公立大学　地域共創センター　センター長　立部　文崇　様～

- ○○を実施する、一方で○○を無くす、減らすという議論をどこかで行えたら良い。
- 周南公立大学の学生もこども食堂など地域に関わり、地域に育ててもらっている。
- 県外出身の学生も地域と関わることで、この周南市に残りたいと思ってもらい、関係人口が増えていくことが理想。